

1 学校教育目標

知・徳・体の調和がとれ、リーダーたる資質・能力を身につけた、国際社会に貢献できる人材の育成

2 前年度の評価・課題の概要

(1) 入学者数の増加が急務  
 (2) 難関大学現役合格者および国公立大学の合格者の更なる増加  
 (3) 生徒一人一人に応じた教育の実施

3 本年度の重点目標

(1) 入学者数の増加（中学入試改革）  
 (2) 難関大学現役合格者および国公立大学の合格者の増加  
 (3) 生徒一人一人に応じた教育の実施

4 自己評価(教職員による評価)

分掌	重点目標	具体的方策	評価基準	達成度	学校評価委員会評価(平均)
1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初志貫徹</li> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・基本的な学習習慣の確立</li> <li>・円滑な集団行動の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに心に決めた志を最後まで貫き通す。</li> <li>・何事にも挑戦し、諦めない姿勢を身につけさせる。</li> <li>・小学校から中学校に上がり、登校時間も異なるため、遅刻欠席等が増えないように気を付けさせる。</li> <li>・挨拶、言葉遣い、服装等の礼儀と身だしなみの指導。</li> <li>・規則正しい生活習慣を身に付ける。</li> <li>・授業の受け方やノートの取り方における基本の指導。</li> <li>・放課後や家庭学習での予習・復習の時間の向上。</li> <li>・提出物の期限を守る。</li> <li>・学校行事を通して、集団での動き方を身に着ける。</li> <li>・少人数の学年のため、お互いの気持ちを理解し合い協働性を高める。</li> </ul>	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	2.7
2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践躬行</li> <li>・基本的な生活習慣の改善</li> <li>・基本的な学習習慣の改善</li> <li>・望ましい集団としての活動・生活</li> <li>・進路意識の形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れず、自分の考えや意思に基づいて実際に行動する。</li> <li>・生活ノートを活用し、自己管理ができるようにする。</li> <li>・自身の生活習慣を振り返り、悪い習慣を断ち切ることを目指す。</li> <li>・家庭学習を確実に行う。</li> <li>・提出物の期限は守る。</li> <li>・基礎学力の土台を安定させるために、言われたことに素直に取り組み、粘り強く続ける。</li> <li>・周囲を気遣い、他者とのあり方を考えることができるようにする。</li> <li>・具体的な進路目標と、その目標に向けた明確な志を立てられるようになることを目指す。</li> </ul>	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	2.7
3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・争い合うのではなく、競い合う姿勢を養う(Competition)</li> <li>・集中して取り組むことを習慣付ける(Concentration)</li> <li>・継続して取り組む態度を身に着ける(Continuation)</li> <li>・頼りあうのではなく、助け合う姿勢を身に着ける(More cooperation than interdependence)</li> <li>・将来の自分を意識する(Vocation)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切磋琢磨できるライバルを見つけ、学習においても生活においても自分を成長させる。</li> <li>・学習だけでなく、何をするときでも、行っていることだけに意識を向け、効率的で効果的に取り組めるようにする。</li> <li>・週ごとの自主学習時間と学習計画を設定させ、それを継続させる習慣の定着をはかるとともに、自分の弱点を把握しその改善に努めさせる。</li> <li>・「してもらう」ではなく「してあげる」という考え方を、道徳の授業やLHRを通じて身に着けさせる。自分の満足よりも他人の幸福が優先できるようにする。</li> <li>・LHRや、道徳 総合の授業を通して、将来の職業を考えさせ、興味だけではなく、適性や将来性を考慮して、大学進学後も見据えて長期的な進路を決めることができるようにさせる。</li> </ul>	4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。	3	2.7

4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上</li> <li>・基本的生活習慣の見直し</li> <li>・進路の明確化</li> <li>・積極的にコミュニケーションを取る</li> <li>・行動力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習を中心とした授業の受け方を改めて意識付けさせ、またフォーサイトを活用して日々の学習時間の確認を行い、向上を促す。中3時に実施したスケールワークを継続し、日々の学習時間を10分でも伸ばせるよう仕向ける。</li> <li>・中学生の時と比べて勉強時間が確実に増えるよう、家庭での時間の使い方の見直しをさせる。睡眠時間の確保を前提とし、予習や小テスト対策の勉強時間を確実に確保できるよう、工夫をさせる。</li> <li>・1学期末には文理選択を行わなければならないことを前提とし各自の進路を明確にさせる。教科、科目に対する得意意識や苦手意識だけで文系、理系を選ぶのではなく、自身の進路を視野に入れて文系、理系を選ぶよう促す。</li> <li>・来年度以降、志望大学が明確になるにつれ、個別指導の機会が増えてくることを視野に入れ、今の内から先生方と教科のことや大学のことについて色々と話をするように促す。また、生徒同士でも様々な情報を共有できるようにする。</li> <li>・学年目標である「知行合一」に基づき、学校や家庭で身につけた知識や見識を実践する機会を増やすように働きかける。また、一つ一つの行動から得られた事柄を活かし、新しい行動が行えるように促す。</li> </ul>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	3	2.7
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・率先垂範(人の先頭に立って物事を行い、人の模範となる)</li> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・個人を尊重し、各自の目標を応援しあうクラスになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の現状を認識させ、その状態でできる行動を取らせる</li> <li>・授業中に寝ないように各教科と連携を取る</li> <li>・基礎学、宿題をやらない生徒を見逃さない</li> <li>・学力の違いはあるが、各自の目標を高々と掲げられる雰囲気を作る</li> <li>・生徒間のいざこざをためないように面談等を適宜行う</li> </ul>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	3	2.7
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・至誠通天</li> <li>・すべての事に誠実に取り組み、努力を惜しまねば必ず願いは叶う</li> <li>・晃英館を背負っているという自覚を持つ</li> <li>・志望校合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の目標・夢を実現させるために、各個人がすべきことを必ずやり遂げられるようにする。提出物の期限などを厳格に守らせる。</li> <li>・昨年度の6年生を手本とし、勉強に対する姿勢、学校行事への取り組み等、最上級生らしくふるまうように指導する。</li> <li>・推薦入試や私大入試、後期試験といった前期試験以外の受験に関してもとりあえず「何となくの出願ではなく、受験全体の作戦をしっかりと考えさせてから入試に臨ませる。</li> </ul>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	4	4.0
教 務 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価の導入・見直し</li> <li>・新たな教育課程の実施</li> <li>・教務内規の見直し</li> <li>・保護者への伝達を確実に行う</li> <li>・外部との折衝を確実に行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新高校1年生で始まる観点別評価に関して、評価の方法や基準を決定し、実施する。また、それに合わせて中学課程の観点別評価の方法や基準を見直し、実施する。また、実施する中で問題点を洗い出し、来年度以降につなげる。</li> <li>・昨年度から始まった中学課程の新教育課程及び今年度から始まる高校課程の新教育課程を円滑に実施できるように各先生方に働きかけを行う。特に高校課程の変更科目で躓きがないように教科主任と連携を取る。</li> <li>・高校課程の観点別評価の導入に合わせて、教務内規の変更が必要になるため、まずは観点別評価に関する内規を作成する。その上で、全体的に見直しを行い、変更すべきところの変更を行う。</li> <li>・昨年度までの実施時期を踏まえて、保護者会や授業参観、総合的な学習の時間発表会、諸費の徴収等、保護者へ連絡する必要がある事柄を迅速かつ確実に行う。</li> <li>・教科書業務や問題集発注業務など、県に報告の必要がある事柄や、外部との折衝が必要な事柄に関して、確実に業務を行えるようにする。また、最終的には主任の責任で業務を行うが、適材適所で業務を行えるようにする。</li> </ul>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	3	3.0

<p style="text-align: center;">総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係行事の適切な運営</li> <li>・パソコンデータ管理の徹底</li> <li>・清掃・美化の徹底</li> <li>・ホームページ管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係行事の事前準備の徹底、適切な運営を行う</li> <li>・行事ごとの改善</li> <li>・各部、各先生方、生徒間での連携</li> <li>・行事ごとへの積極的な取り組み</li> <li>・データの保存、管理、バックアップ</li> <li>・ICTとの連携</li> <li>・各部から提供されるデータの一括管理</li> <li>・使用アプリ・ソフトの年度更新作業等</li> <li>・清掃指導の徹底</li> <li>・清掃用具の管理（購入）</li> <li>・清掃時の生徒への適切な指導</li> </ul> <p>・学校行事の更新、緊急時の連絡等の迅速な対応、入試速報等</p>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	3	3.0
<p style="text-align: center;">進路部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な進路探究への準備</li> <li>・進路実現に向けた主体的活動の実践</li> <li>・高3生全員の第1志望現役合格</li> <li>・中学課程の基礎学力向上</li> <li>・新学習指導要領(高校)に対応した大学入試情報の収集と分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHRにおいて大学・学部・学科や職業調べなどを通して進路に対する興味を深め、目的意識を高める。さらに、実際に職場体験を経験し、また大学を訪問してキャンパスの雰囲気を感じることで、高校課程において主体的な進路探究ができるよう準備させておく。中学課程におけるすべての活動においてPDCAサイクルを意識させ、確立へ向けての準備をさせ、その活動を促進する。その際キャリア・パスポートを効果的に使う。</li> <li>・大学受験前の高1・高2の時期に自分がどのような学力レベルに到達したいのかよく考え、その実現のために高1・高2の時点において何をすべきかよく考えて具体的な計画を立て、そして実践していくよう指導する。いわゆるPDCAサイクルを回し、学習面・情報収集などすべての面における主体的な活動をする時期であることを認識させる。また、ボランティア活動など自分が業績として残したいものは早めに計画を立て主体的に動くように指導する。</li> <li>・模擬試験の結果を分析し、各分掌・各教科との連携を強化しながら、効果的な対策を考え、職員会議等を活用して全教員で共有し、生徒の進路実現に向けた教員の連携を強化し、高3生を支援する。推薦入試(特に学校推薦型選抜)に関しては全教員で一丸となって推薦する生徒を支える。</li> <li>・Z会アドバンス模試において明確となった基礎・基本力不足を解消すべく、担任を中心として主要5教科の教科担当が共通の目標をもって取り組みたい。必要に応じて学年会議を開催して課題・目標を共有し、定期的に振り返りをしながら学力の向上につなげていく必要がある。3学期Z会アドバンス模試において3教科学年偏差値が昨年度より大きく上昇させることを目指す。</li> <li>・今年度から実施される新学習指導要領に対応する大学入試に関する情報をいち早く収集・分析し、全教員で共有できるよう努める。そこで得た情報を基に新しい教育課程の作成にフィードバックしていく。</li> </ul>	<p>4:十分に達成できた。 3:おおむね達成できた。 2:取り組んだが十分に達成できなかった。 1:計画のみに終わった。</p>	3	2.7

生徒部	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、気概、実践をめざす</li> <li>問題行動をゼロにする</li> <li>生徒会の組織・運営</li> <li>部活動への積極的参加</li> <li>自転車等による交通事故をゼロにする取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰に対しても、自然な態度で挨拶することや正しい言葉遣い・服装・頭髪を指導する。</li> <li>自律した生活によって、誘惑にうち勝つ気概を身につけさせる。</li> <li>ボランティア活動や花の栽培など実践を通して心の育成を図る。</li> <li>生徒の状況確認やアンケートを活用し、担任と連携を密にして、迅速な対応を行い、問題解決を図る。</li> <li>ネットパトロールを活用し、ネットによる問題行動の対策を行う。</li> <li>携帯電話の講習会などを実施する。</li> <li>生徒会と委員会が活動するにあたり、自主的かつ主体的に運営できるように指導を行う。</li> <li>部活動加入者の増加と定着を図る。</li> <li>交通委員会を通じて、自転車の施錠・交通安全の啓蒙等を行う。</li> <li>交通安全教室等を活用して、生徒の交通安全に対する意識を高め 特に自転車も時には加害者になることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4:十分に達成できた。</li> <li>3:おおむね達成できた。</li> <li>2:取り組んだが十分に達成できなかった。</li> <li>1:計画のみに終わった。</li> </ul>	3	2.7
入試広報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>受験者数50名以上</li> <li>入学者数30名以上</li> <li>各行事の円滑な運営</li> <li>中高一貫校の魅力発信</li> <li>入試制度の改革</li> <li>晁英館のファンを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPやLINEを活用し、広報活動を進める。</li> <li>小学校や塾で保護者、児童と直接つながれるよう、先生方と交流し、関係性を築く。</li> <li>コロナ禍が収まらないことを考え、柔軟な動きができるように行事の企画・運営をしていく。</li> <li>日頃の教育活動が見えるように、各先生方の取り組みをまとめておく</li> <li>野田学園・慶進中学高等学校との3校合同説明会を成功させる</li> <li>ここで得たものを日頃の広報活動につなげる。</li> <li>各入試のあり方をもう一度よく考え、多くの生徒に受験してもらえる制度を作っていく。</li> <li>在校生の満足度を高めることで、卒業後も晁英館を応援してもらえる生徒・保護者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4:十分に達成できた。</li> <li>3:おおむね達成できた。</li> <li>2:取り組んだが十分に達成できなかった。</li> <li>1:計画のみに終わった。</li> </ul>	2	2.0
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度 国内語学研修(高1&amp;高2)6日間</li> <li>目的に沿った効果的な研修の立案と計画(2023年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前指導の徹底(放課後)</li> <li>保護者、代理店、教員の密な連携</li> <li>主体性、積極性、国際社会の一員としての自覚の育成</li> <li>英語の運用能力を高め、与えられた課題に対して生徒が話し合い、協力を通じて問題を解決し、達成感の味わえる活動を考える。</li> <li>学んだことや自分の考えを表現できるような機会を与えられるようにする。</li> <li>研修に関する情報の収集をする。</li> <li>2022年度の反省を活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4:十分に達成できた。</li> <li>3:おおむね達成できた。</li> <li>2:取り組んだが十分に達成できなかった。</li> <li>1:計画のみに終わった。</li> </ul>	2	2.0

## 5 学校関係者評価

学校評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス運営および進路指導について 1～5年生については、意識付から生徒の主体的取り組みへの誘導がまだまだ不十分である。進路実現に向けてしっかり指導してもらいたい。</li> <li>特別活動について 生徒会活動や部活動が活発に行われるよう指導してもらいたい。</li> <li>入試広報(生徒募集) A4程度の大きさのポスターを作成し、広く店舗等に掲示してもらおう等、もっと晁英館の認知度を高める工夫をしてもらいたい。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外語学研修の実施を強く要望する。</li> </ul>